

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

12月10日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみ」、「なか」、「しも」の3カ所で、表層から水深30mまで3層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの浮遊幼生は確認されませんでした(表1)。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温 【℃】	クロロフィル 【μg/L】	ザラボヤ		ユウレイボヤ		その他のホヤ		ヒトデ		フジツボ	
				個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ
かみ	0~10m	7.7~8.2	0.5~0.8										
	10~20m	8.2	0.5~1.0										
	20~30m	8.2	0.5~0.7										
なか	0~10m	7.7~7.9	0.6~0.8					1	2.5				
	10~20m	7.9~8.2	0.5~0.7					1	2.5				
	20~30m	8.0~8.2	0.5~0.7					5	12.5				
しも	0~10m	7.6~8.2	0.4~0.8					1	2.5				
	10~20m	7.7~7.8	0.6~0.7										
	20~30m	7.8~8.1	0.5~0.8					1	2.5				

【参考資料】

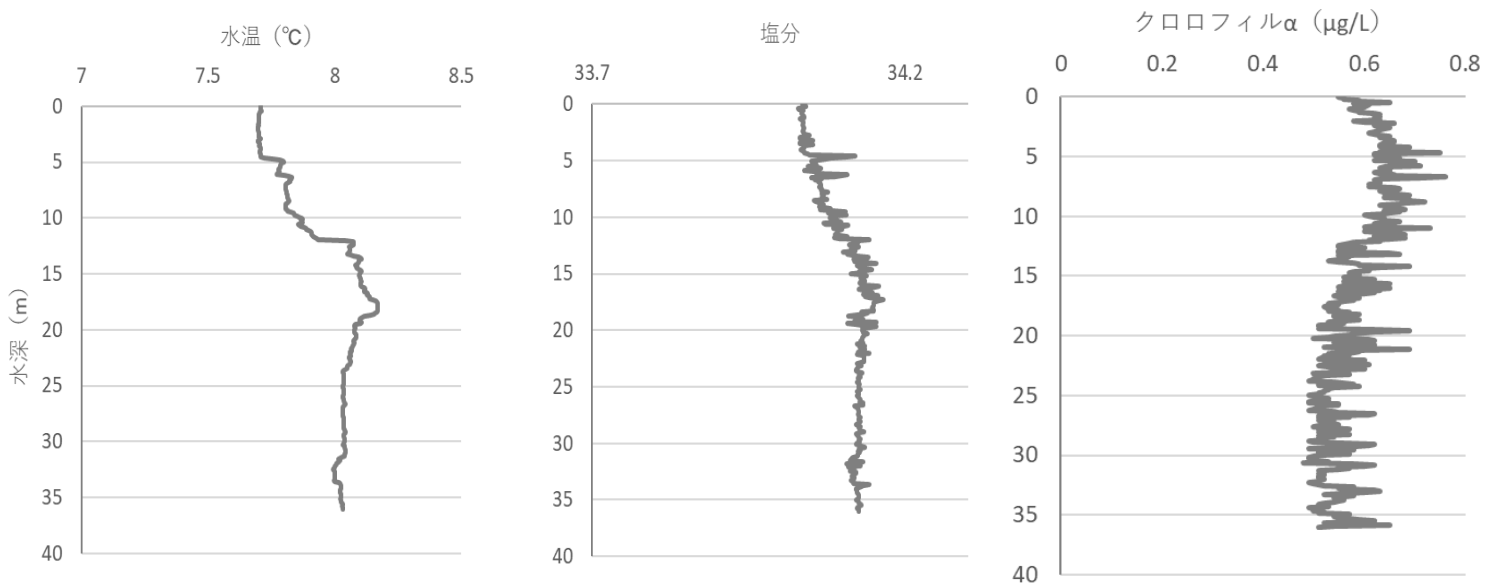
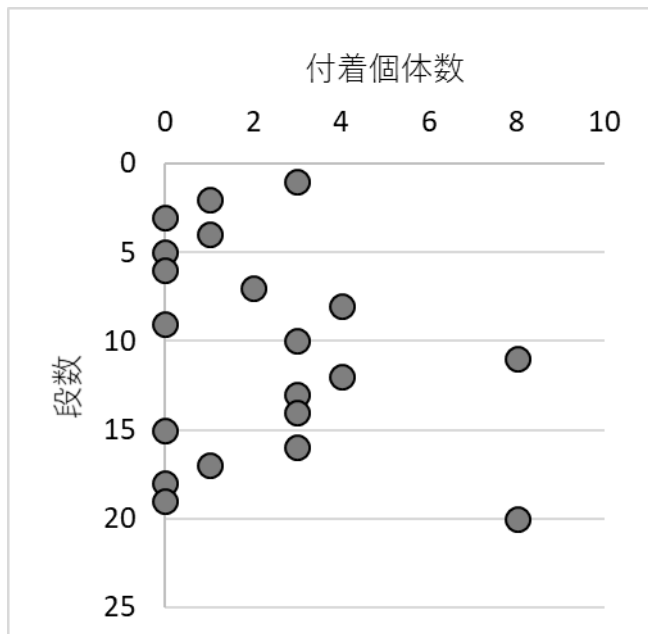


図1：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ付着量調査結果

- 部会の桁に設置した試験籠にザラボヤの付着が確認されました。
- 試験籠の付着数は **44 個体** で、各段の付着数は 0~8 個体、平均付着数は 2.2 個でした (図 1)。
- 籠の上面に 25 個体、側面に 10 個体、下面に 9 個体が付着しており、上面に付着が多いことがわかりました (図 2 : 計測場所の概念図)。
- 部会の桁に設置しているザラボヤ付着プレートにザラボヤの付着が確認されなかったことから、11 月中旬から 12 月中旬のザラボヤ幼生の発生はほとんどなかったものと考えられます。



ボヤの付着数と分布。段数は数字が小さいほど水面側を示しています。

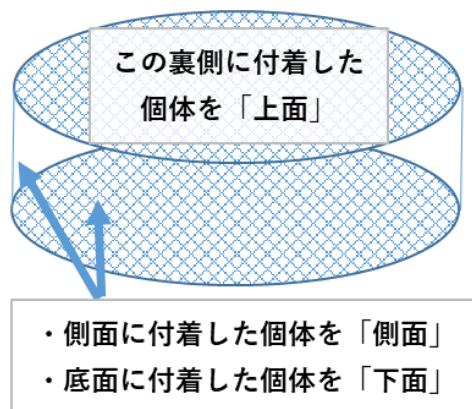


図 2 : 試験籠の各段の計測箇所の概念図。

◎ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所 (図 4)

【試験籠の結果】

- 上面：20~60mm の小型~大型の個体が付着していました。また、上面のみ 50mm 以上の大型個体が確認されました。
- 側面：15~45mm の小型~中型の個体が付着。
- 下面：主に 20~40mm の小型~中型個体が付着していました。

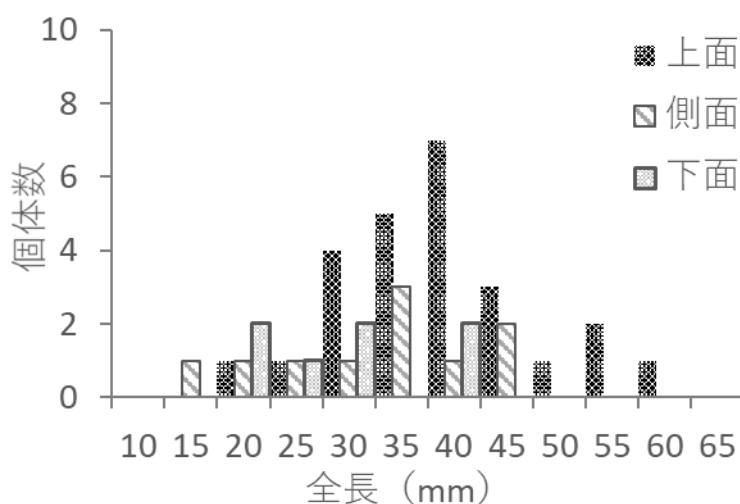


図 4 : ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所の関係。

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します。

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

※調査結果は中央水産試験場 HP から確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html>